

家庭科における「多様性」と「共生社会」



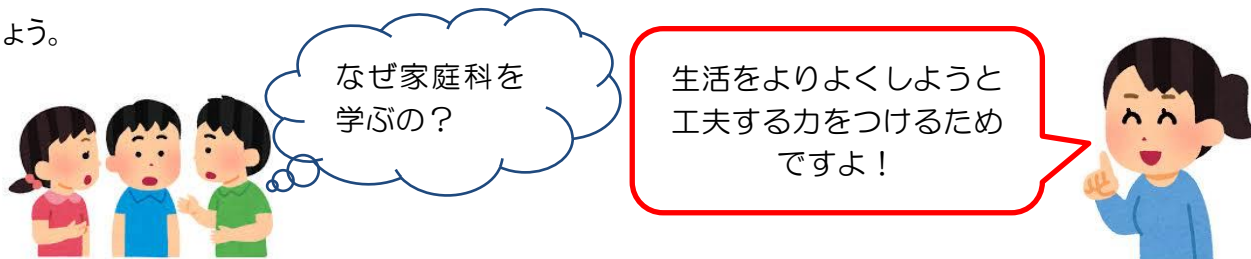
令和6年度がスタートし、早2か月が過ぎました。あっという間に1学期も後半戦に突入です。5年生は心待ちにしていた調理実習が終わり、次のソーイングへ移り始めていることでしょう。「玉結び・玉どめ」は手縫いにおける最初の難関かもしれませんね。御指導よろしくお願いたします。

家庭科には上記のような「衣食住」以外にも「家族・家庭生活」「消費生活・環境」という枠組みがあります。第1回研修会での小清水先生の講話は「家族・家庭生活」を中心としたものでした。新しい教科書の掲載写真を基に「多様性」と「共生社会」についての様々な視点から活用方法を教えていただきました。

講話の中で興味深いデータがありました。2023年の厚労省調査によると「児童のいる世帯は全世帯の2割を切る(18.3%)」というのです。衝撃的でしたが、だからこそ家庭科の学習の大切さを感じました。小学校5・6年生の時期に「なぜ家庭の仕事(家事)をするのか」を考えさせ、いずれ成人となったときにも、「家庭の仕事をすることに意義を感じる」という【家庭の仕事に向き合う姿勢】を育成する必要があるのではないのでしょうか。

先日、別の研修会でパラオリンピックの河合純一氏の講話を聞く機会がありました。その中で河合氏は、共生社会とは「共に生きる社会」ではなく『共に生かし合う社会』だと述べられていました。まさに、家庭科における「共生」…『チームとしてどのように助け合うか』に繋がっていきます。

来年度からスタートする「第4次浜松市教育総合計画」のキーワードの一つ「多様性・包摂性」は家庭科の学習と深く結びついています。人により得手不得手があるという「個性」を『多様性』に置き換え、支え合うことが今後ますます重要となってきます。だからこそ、家庭科が「多様なライフスタイルを認め合う」つまり、『多様な価値観に触れる学びの場』となるよう一緒に頑張りましょう。



小学校家庭科研究部顧問校長（浜松市立追分小学校）坪井 百合子

小学校家庭科研究部 第1回研修会報告

令和6年5月22日（水） 於：アイミティ浜松 ホール
講話「新しい教科書活用の工夫～多様性と共生社会の視点より～」

静岡大学教育学部

小清水貴子教授

今年度より5年生の家庭科の教科書が新しくなりました。新しい教科書をどのように活用したらよいのかを、多様性と共生社会の視点を交えながら分かりやすくお話いただきました。これからの家庭科で大切にしていきたいことをさらに学ぶことができました。



(1) 家庭科で育成する資質、能力

「どうして家庭科を学ぶのか」という問いに対し、「生活をよりよくしようと工夫する力を身につけるため」と、家庭科の目標をふまえて確認しました。

(2) 多様性と自己の価値認識

世界6カ国の18歳を対象とした「国や社会に対する意識調査」から見えることについてお話をいただきました。日本の若者が多様性や個性を重要だと考えているが、社会との関わりで大人としての意識をもったり、自分らしくいたりすることに課題を抱えていることを知ることができました。また、他国に比べて「学校での学びの意味づけ」や「本を読む」割合が顕著に低いことも分かりました。

(3) 教科書の活用の工夫～「家庭の仕事」を例に～

日常生活の中核を成す「家庭の仕事」を例に指導法を教わりました。まず、新しい教科書の「できるよ家庭の仕事」の写真を見て、気付いたことやこの単元で身に付けたいことについてアプリを使いながら意見を出し合いました。次に、家庭の状況と手伝いの実態を見てみると、日本の全世帯の中で児童のいる世帯の割合が2割を切っており、子育ての環境が変化していることを知りました。一方、子供の手伝いの状況に大きな変化はないものの、家庭の仕事に対する保護者の性別役割意識により子供の手伝いの状況が大きく変わることがあると知りました。このような実態から、授業で家庭の仕事を取り上げる際には、「性別に関わらず、誰もが生活を営む上で必要不可欠な行為」であり、誰がするかではなく、「チーム（家族）としてどのように助け合うのか（共生）」を考えられる学びにすることが大切だと感じました。

令和6年度 小学校家庭科研究部組織紹介

顧問校長	坪井 百合子（追分小学校）	柳瀬 美穂（瑞穂小学校）
	金子 直由（尾奈小学校）	長坂 麻里子（横山小学校）
部長	原田 佳代子（庄内小学校）	
副部長	森田 絵奈（西気賀小学校）	高林 美奈（初生小学校）
	鈴木 あゆみ（上島小学校）	

【部長あいさつ】

今年度より、小学校家庭科部長を務めさせていただくことになりました。「よりよい生活を自ら創り出す子供の育成」をテーマとし、資質・能力を確実に育成する指導計画の工夫や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫に重点を置いた研修を進めていきます。先生方と情報交換をし、よりよい研修になるよう努めていきたいと思っております。よろしくお祈りします。

部長 原田 佳代子

【編集後記】

今年度、小学校家庭科部の家庭科だより「まど」を担当します。研修会の内容や各学校の実践を紹介していきます。ぜひ校内でも回覧し、家庭科の授業がより充実したものになるように役立てていただけたらと思います。よろしくお祈りします。 まど担当 副部長 鈴木あゆみ